



第9回

吉野川市学校再編計画策定委員会

平成24年10月29日（月）午後7時

吉野川市川島庁舎2階大会議室

学校再編計画策定委員会第9回会議日程

- 1 開 会
- 2 会長挨拶
- 3 教育長挨拶
- 4 協議事項
 - (1) 跡地・跡施設の活用について 1
 - (2) 計画期間について 5
 - (3) 答申案（その1）について 別添
- 5 そ の 他
- 6 次回の開催日程 8
- 7 閉 会

協議事項 (1)跡地・跡施設の活用について

1 跡地・跡施設の活用状況

①吉野川市の現状

市内では、現在、美郷地区の中村小学校（H2～）、東山小学校（H13～）、中枝小学校（H19～）、美郷中学校（H22～）の4校が休校しています。

これまでの休校校舎は、比較的交通の不便な場所にあり、災害時の避難場所として活用するほかは、具体的な活用方法がない状況です。過去には、休校中の中枝小学校について、宿泊所などを備えた体験・交流施設への転用を検討した経過もありますが、実現に至っておりません。

このほか、文部科学省が立ち上げた「みんなの廃校」プロジェクトを利用して、同省のホームページに中枝小学校、東山小学校、美郷中学校を掲載し、地域活性化につながる活用アイデアを募集していますが、今のところ具体的な提案は出ていません。

次に、跡地・跡施設の活用が決定した事例として、平成22年に廃校した川田山小学校（山川町）の校舎を同年10月に解体し、この度、地元集会所の建て替え用地として活用することとなりました。

同じく、平成22年から休校している美郷中学校のテニスコート場は、市産業経済部の木材利用促進事業の一環で木材置き場として活用することとなりました。

なお、現在、児童・生徒が通う14小学校、4中学校は、本年度で耐震改修が完了する予定です。

②徳島県内の状況

校舎の全部又は一部を活用するなどして、様々な取組を行っています。その1例を紹介します。これは、過去の新聞記事や自治体ホームページから情報を収集して取りまとめたものなので、現状と異なる可能性があります。

【阿南市】

- ・IT企業にサテライトオフィス開設を呼び掛けるとともに、ウミガメ観察の学習交流施設としての活用も目指す（蒲生田小）

【美馬市】

- ・多世代交流センター「美馬竜王の里」（切久保小）
- ・多世代交流センター「重清北交流館」（重清北小）

【三好市】

- ・ 社会福祉法人が校舎の一部をデイサービスに活用（漆川小）
- ・ 市の資料館（東谷小）
- ・ 富士正晴記念館（大野中）
- ・ 市ホームページで休廃校活用アイデアを募集中（22校）

【東みよし町】

- ・ 農山村体験・宿泊施設「増川笑楽耕」（増川小）
- ・ 町内の休廃校7小学校に残された思い出の品々を集めた展示施設「旧交館」（東山小）

③全国の状況

文部科学省が平成24年9月14日に公表した「廃校施設等活用状況実態調査」によると、現存する廃校4,222校のうち、何らかの活用が図られているケースは2,963校（70.2%）となっています。

主な活用用途は、スポーツセンターなどの社会体育施設のほか、公民館、生涯学習センターなどの社会教育施設、資料館、美術館などの文化施設、障害者福祉施設、老人福祉施設、体験交流施設などとなっています。

利用計画がない廃校数は1,000校あり、利用計画がない理由として、地域等からの要望がない、建物自体が老朽化している、地域住民等と検討中、立地条件が悪いなどが挙げられています。

一方、休校は435校のうち、何らかの活用が図られているケースは280校（64.4%）となっています。

今後の予定として、在校生が生じることが決定している（8校，1.8%）、廃校が決定している（18校，4.1%）、検討中（409校，94.0%）となっています。

なお、徳島県は全国で休校数が最も多く、67校（うち小学校60校，中学校7校）となっています。

県外では、次のようなユニークな活用事例があります。

【東京都新宿区】

- ・ 吉本興業東京本部社屋（四谷第五小）

【愛知県豊田市】

- ・ あすけ里山ユースホステル（椿立小）

【京都府京都市】

- ・ 京都国際マンガミュージアム（龍池小）

2 具体的活用方法

例1) 社会体育施設

学校の体育館や運動場は、地域のスポーツ等の場として利用されているとともに、災害時には避難場所としての役割を担っています。

こうしたことから、体育館は耐震性能等を考慮した上で、平常時は地域のスポーツ施設として、災害時には避難場所として有効活用することが望まれます。

避難場所として活用するに当たっては、備蓄倉庫や災害設備などの防災機能を充実することも検討を要します。

例2) 地域コミュニティ施設

地域住民の様々な活動や交流の場として、地域の実情に応じて、他の公共施設等と連携を図りながらコミュニティ活動を支援する施設としての機能を考慮することが望まれます。

また、子どもの生きる力を総合的に育むため、地域社会の力を生かすことが求められています。このため、地域が一体となって子育てを支援しつつ、心豊かに育んでいく環境を整備することも検討を要します。

(参考:平成23年度 学校施設使用状況)

小学校

(単位:月平均使用回数)

学校名	体育館		運動場		
	日中	夜間	日中	夜間	照明設備
上浦小学校	4.3	22.1	-	-	×
牛島小学校	17.5	32.1	7.9	8.0	×
森山小学校	6.3	29.5	4.2	13.0	×
鴨島小学校	15.4	45.9	7.1	54.5	○
飯尾敷地小学校	11.5	35.2	7.8	6.6	×
西麻植小学校	2.6	29.8	6.1	23.5	×
知恵島小学校	0.1	24.8	-	-	×
川島小学校	12.6	27.6	10.2	42.1	○
学島小学校	10.8	30.4	18.3	16.8	○
山瀬小学校	4.1	28.8	4.8	28.0	○
川田小学校	12.9	30.8	10.3	21.7	×
川田中小学校	0.1	3.6	8.7	7.3	×
川田西小学校	0.4	7.1	-	-	×
種野小学校	0.1	-	-	-	×

中学校

(単位:月平均使用回数)

学校名	体育館		運動場		
	日中	夜間	日中	夜間	照明設備
鴨島東中学校	0.7	34.2	0.3	16.8	○
鴨島第一中学校	0.8	43.9	3.6	7.4	○
市立川島中学校	0.3	23.8	7.7	4.0	×
山川中学校	0.8	15.8	0.2	13.7	○

※ 日中 (7:00~17:00) , 夜間 (17:00~22:00)

※ 使用回数を集計しているため, 1日に2団体以上が使用すれば月平均の使用回数が月日数を超える場合がある

※ 日中・夜間と継続して使用する場合は, 両方に使用回数として含まれる

※ 市立川島中学校については, 照明設備はあるが, スポーツなどを行うには暗いため, 夜間照明施設としては利用を許可していない

協議事項 (2) 計画期間について

学校再編計画は、前期計画、後期計画及び将来構想の三部構成とします。

前回の会議で取りまとめた学校再編案について、学校の増改築等の順番、工事期間などを勘案し、計画期間を前期、後期それぞれおおむね5年とします。

また、これまでに出示された意見を参考に、将来の人口減少を見据えた理想と考える学校再編を、将来構想として加えることとします。

前期計画

- ・ 上浦小学校と牛島小学校と森山小学校を鴨島東中学校に統合
- ・ 川田小学校と川田中小学校と川田西小学校と種野小学校を川田中小学校に統合
- ・ 鴨島東中学校と鴨島第一中学校を鴨島第一中学校に統合

【留意点】

鴨島東中学校が鴨島第一中学校に統合されないと、上浦小学校と牛島小学校と森山小学校を鴨島東中学校に統合することができない。

牛島小学校は幼保再編の候補施設となっているため、牛島小学校を含んだ学校再編が進まないと、幼保再編が進まない可能性がある。

川田小学校と川田中小学校と川田西小学校と種野小学校を川田中小学校に統合することについては、児童数が著しく少なくなる恐れのある学校を含んでいるため、早期の学校再編が望まれるが、4幼稚園は小学校の校舎と一体となっており、小学校を先行して統合すると、幼稚園だけがその校舎に取り残されることになるため、幼保再編と連携して進める必要がある。

後期計画

- ・ 鴨島小学校と知恵島小学校を鴨島小学校に統合
- ・ 飯尾敷地小学校と西麻植小学校を飯尾敷地小学校に統合
- ・ 川島小学校と学島小学校を市立川島中学校に統合
- ・ 市立川島中学校と山川中学校を山川中学校に統合

【留意点】

市立川島中学校が山川中学校に統合されないと、川島小学校と学島小学校を市立川島中学校に統合することができない。

小学校

学校名	前期計画 (おおむね5年)	後期計画 (おおむね5年)	将来構想
上浦小学校	鴨島東中学校 に統合	→	→
牛島小学校			
森山小学校			
鴨島小学校	→	鴨島小学校に 統合	児童数の推移を考慮 しつつ、後期に統合 した2校を再統合す ることを検討する
知恵島小学校	→		
飯尾敷地小学校	→	飯尾敷地小学 校に統合	
西麻植小学校	→		
川島小学校	→	市立川島中学 校に統合	→
学島小学校	→		
山瀬小学校	→	→	児童数の推移を考慮 しつつ、山瀬小学 校と前期に統合した小 学校を再統合するこ とを検討する
川田小学校	川田中小学校 に統合	→	
川田中小学校			
川田西小学校			
種野小学校			

中学校

学校名	前期計画 (おおむね5年)	後期計画 (おおむね5年)	将来構想
鴨島東中学校	鴨島第一中学 校に統合	→	生徒数の推移を考慮 しつつ、新たな場所 に中学校を建設し、 既存の校舎は再統合 する小学校の校舎と して活用することを 検討する
鴨島第一中学校			
市立川島中学校	→	山川中学校に 統合	
山川中学校	→		

学校再編工程表（イメージ）

	施 工 箇 所	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年
前期計画	〔川田中小学校 鴨島東中学校 鴨島第一中学校〕	設計	工事	工事							
			設計	工事	工事						
				設計	工事	工事					
後期計画	〔鴨島小学校 飯尾敷地小学校 川島中学校 山川中学校〕				設計	工事	工事				
						設計	工事	工事			
							設計	工事	工事		
								設計	工事	工事	

- ・ 標準的な工期を3年（設計1年，工事2年）に設定する。
- ・ 工事が3箇所以上重ならないように，開始時期を1年ずつずらす。
- ・ 前期・後期の別は，着手する時期ではなく，工事が完了する時期で区分する。
- ・ 施工箇所の学校名は，小中学校ごとに東側から表記しただけのものであり，工事の順番は別に検討する。

次回の開催日程

11月 日（ ）午後7時から

川島庁舎2階大会議室

協議事項（予定）

- ・今回の継続審議事項